

## 活動概要

阪神間の特別支援学校教員有志による特別支援教育自主研修会を実施。通称「手と手の会」。研修内容は、発達の手筋、コミュニケーション指導、摂食指導、感覚運動指導などの現場に直結した研修理論の学びと各校からの事例をもとに授業研究、事例研究などを行い、情報提供をしていただいた授業者や学校が手がかりを得られるよう討議を行う。

## 活動内容

活動・研究・委託テーマ	阪神間の特別支援学校教員有志による特別支援教育自主研修会
対象となる地域・企業等	
活動学生（ゼミ・学年等）	
連携時期	
学外への広報方法	平成22年度には、神戸新聞等による記事紹介
連携内容	本会は、通称「手と手の会」と呼んでいる。開催当時は、阪神間肢体不自由特別支援学校5校の合同学習会として開催したが、この数年間は、知的、病弱特別支援学校も参加している。現在、伊丹特別支援学校、川西養護学校、宝塚市立養護学校、西宮養護学校、尼崎養護学校、ひまわり特別支援学校、篠山養護学校、県立神戸特別支援学校、県立こやの里特別支援学校、県立上野ヶ原特別支援学校などから、毎回約50～70人の現場教員が参加し学んでいる。研修内容は、発達の手筋、コミュニケーション指導、摂食指導、感覚運動指導、授業研究、事例研究などであり、教員が明日の指導に活かせる内容に重きを置いている。
成果	同会は、私が伊丹市立伊丹特別支援学校長時代に設置し、現在もコーディネーターとして推進しているところである。実践に結びついた内容のため、同会の継続の要望が高く、参加者数が増え続けている。

## 研究者・研究グループからの「ひとこと」

「手と手の会」（代表：橋詰和也）インクルーシブ教育システムの構築が進む中、特別支援教育においてはエビデンスのある指導が一層求められています。特別支援学校の現場では、先生方が授業力向上のため日々研鑽をされていますが、最も大きなニーズは、特に肢体不自由教育や知的障害教育における核となる理論体系や指導方法の発想、工夫、構築です。この「手と手の会」は、現場の特別支援学校の先生方の任意の参加です。参加される先生方が、次の授業の確実な手がかりを得られることを会の趣旨としています。

## 活動内容PR（活動の様子・参加者の声等）

平成22年度より継続している本会は、各学校の先生方が参集しやすい時期を年間から抽出し、年5～6回の開催としています。開催当時から、本会に続けて参加されている先生方も多数おられますが、毎年度新たな先生方もこられ、会自体が常にスパイラルアップをしていると感じます。研修内容は、極めてオーソドックスですが、実際の授業と関連づけることで、座学になるのではなく、実践に活かせるエビデンスのある指導につながっています。各学校から実践事例を報告していただき、参加している特別支援学校の先生方が、肢体不自由、知的、病弱の障害種別を超えて討議を重ねることで、新たな発見が得られていきます。「手と手の会」が、子ども達の学び、先生方の学びを得られる場となるよう、これからも未永く継続していった欲しいというのが参加者の願いです。

